建設業しんこう

No. 508
建設産業の
今を伝え未来を考える
5
May. 2019

特集

【鼎談】建設系専門学校の役割と取組について

一般財団法人
建設業振興基金

高校生の皆さんへ

国土交通省と建設産業人材確保・育成推進協議会では、建設業に関心を抱いて頂き、入職の検討の機会とするために、高校の建築・土木、環境、デザイン学科などで学んでいる生徒を対象として、高校生の作文コンクールを実施します。

応募対象

高校の建築学科、土木学科等で学ぶ生徒

応募テーマ

建設業に対する「夢」や「憧れ」等について

※建設業に関する内容でしたら上記以外のテーマでも応募できますので奮ってご応募ください。

お問い合わせ先

(一財)建設業振興基金　経営基盤整備支援センター
「高校生の作文コンクール」係
〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-2-12
虎ノ門4丁目MTビル2号館6階
TEL：03-5473-4572
Mail：jinzai@kensetsu-kikin.or.jp

応募用紙のダウンロードはこちら

ヨイケンセツドットコム 検索

建設現場へGO！ 検索

建設業で働く皆さんへ

国土交通省と建設産業人材確保･育成推進協議会では、建設業を担っている皆さんの建設業への熱い想いを伝えていただくとともに、一般の人たちへ建設業の役割や重要性について理解と関心を高めていただくために、建設業で働く方の主張を募集します。

応募対象

建設業の仕事に従事している方。

応募テーマ

「新たな時代を迎えて、建設業に望むこと」
又は
「若い世代に伝えたい建設業の魅力」

お問い合わせ先

(一財)建設業振興基金　経営基盤整備支援センター
「私たちの主張」係
〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-2-12
虎ノ門4丁目MTビル2号館6階
TEL：03-5473-4572
Mail：jinzai@kensetsu-kikin.or.jp

応募用紙のダウンロードはこちら

ヨイケンセツドットコム 検索

建設現場へGO！ 検索

建設産業の今を伝え未来を考える

建設業しんこう

May. 2019
5

No.508

CONTENTS

編集・発行：一般財団法人 建設業振興基金
〒105-0001　東京都港区虎ノ門4-2-12虎ノ門4丁目MTビル2号館
TEL：03-5473-4584　FAX：03-5473-1594
URL：http://www.kensetsu-kikin.or.jp/

特集 【鼎談】
建設系専門学校の役割と取組について …… 02

■ 山野 大星 氏
全国専門学校建築教育連絡協議会 会長
日本工学院八王子専門学校 副校長

■ 鈴木 茂樹 氏
全国専門学校土木教育研究会 会長
東海工業専門学校金山校 顧問

■ 佐々木 基
一般財団法人建設業振興基金 理事長

FOCUS
工業高校紹介
福岡県立八幡工業高等学校 …… 08
■ インタビュー：重松 佳樹 先生

PRESCRIPTION
日本経済の動向 …… 10
■ インバウンド需要拡大が地価上昇要因に

建設経済の動向 …… 11
■ 7年連続引き上げで過去最高に

連載 **働き方改革と若者の定着の実践に向けて** …… 12
■ 【第2話】
若い人材の確保と定着

連載 **かわいい土木【第21回】** …… 14
■ 膳棚水路橋 ／栃木県那須町

しんこうTODAY …… 16

いつでもチェック!!

建設業しんこうWeb
建設産業の今を伝え
未来を考える

『建設業しんこう』は
Webでも
ご覧いただけます。

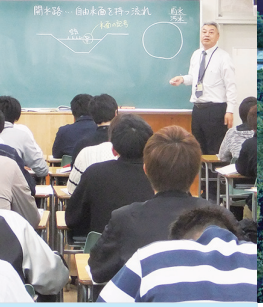
しんこうWeb 検索
https://www.shinko-web.jp/

メルマガ登録は
コチラから!

「建設業しんこう」に関するご意見・ご要望
TEL：03-5473-4584（企画広報部）
MAIL：kikaku@kensetsu-kikin.or.jp

印 刷：日経印刷株式会社
◎本誌記事の無断転載を固く禁じます。

【建設業しんこう編集委員】
東洋大学理工学部建築学科教授　浦江真人
国土交通省建設市場整備企画官　堀口岳史
(一財)建設業振興基金専務理事　伊澤透
国土交通省建設業政策企画官　平林剛
日経BP総研上席研究員　野中賢



特集
Cover story

【鼎談】

建設系専門学校の役割と取組について

本財団では、建設産業における担い手確保・育成に取り組んでいくための体制整備や
若年者の入職促進・育成のため各種事業に取り組んでいます。
近年、各事業において、教育機関との連携を重要視しています。
今回は建設系専門学校の現状を踏まえ、担い手確保・育成に向けた連携を図るため、
全国専門学校建築教育連絡協議会 会長の山野大星氏、
全国専門学校土木教育研究会 会長の鈴木茂樹氏をお招きし、
本財団 佐々木基理事長と意見交換を行いました。
専門学校の現状をはじめ、建設業全体への提言・提案など、
多方面にわたる話題をめぐり、議論は白熱しました。
その模様をダイジェストでお届けします。

山野 大星 氏
全国専門学校建築教育連絡協議会 会長
日本工学院八王子専門学校 副校長

佐々木 基
一般財団法人建設業振興基金 理事長

鈴木 茂樹 氏
全国専門学校土木教育研究会 会長
東海工業専門学校金山校 顧問

PROFILE

全国専門学校建築教育連絡協議会(以下、全専建協)
工業分野の専門学校のうち、建築系学科を有する専門学校の地位向上、教育内容の充実を図るとともに、会員の連帯と親睦を目的に、1994年、19校にて設立。1999年度は会員校が45校となる。2018年度は新規加盟3校を加えた27校で活動中。

全国専門学校土木教育研究会(以下、専土研)
将来の専門学校の土木教育のあり方を考える団体として、2001年、39校にて設立。現在は土木系学科を設置していない学校2校、職業訓練校1校計3校の会員校を含め16校で活動を展開中。

はじめに

佐々木基（以下、佐々木）　本財団は、建設産業の近代化・合理化と体質の改善強化を図ることを目的として昭和50年に設立されました。本日は、本財団が近年、重点的に取り組んでいる担い手確保・育成に関する事業や今後の建設業界の展望等について、建設系専門学校の団体の会長であるお二方と議論していきたいと思います。山野会長、鈴木会長、よろしくお願いいたします。

山野 大星氏（以下、山野）

鈴木 茂樹氏（以下、鈴木）

よろしくお願いします。

佐々木　まずはじめに、専門学校の役割についてご紹介ください。

山　野　教育制度の根幹を成す法律として、学校教育法があります。しかしながら、戦後間もない時期に定められたもので、専門学校は学校教育法の第一条に入っていない（つまり「一条校」ではない）教育機関としてカテゴリーされてきました。我が国では「職業教育」があまり重要視されない時代が長く続いてきたということです。しかしながら、我が国の高度経済成長を支えた中堅的工業系人材を専門学校が数多く輩出してきたのは誰もが認めるところです。近年になって、2006年の教育基本法改正により教育の目的に「職業」が明示されるようになりました。また、2019年4月からは専門職大学・専門職短期大学という新たな学校制度もスタートし、いずれ建設系の学校も認可されることになるでしょう。ようやく時代が追いついてきたという実感を持っています。

鈴　木　土木分野は国の基幹産業のひとつとしてインフラ整備を担う重要な仕事です。現政権は国土強靭化計画を打ち出していますが、担う人材が圧倒的に不足していくことは明白です。地方に行けば昭和時代に作られた橋やトンネルなど老朽化したインフラが膨大にあり、その改修を手がける人手がまったく足りていません。今後ますますその傾向は強くなることでしょう。専土研でもその危機感を共有しており、人材育成の第一歩である入学生確保に全力を尽くしています。

専門学校に入学する人のプロファイル

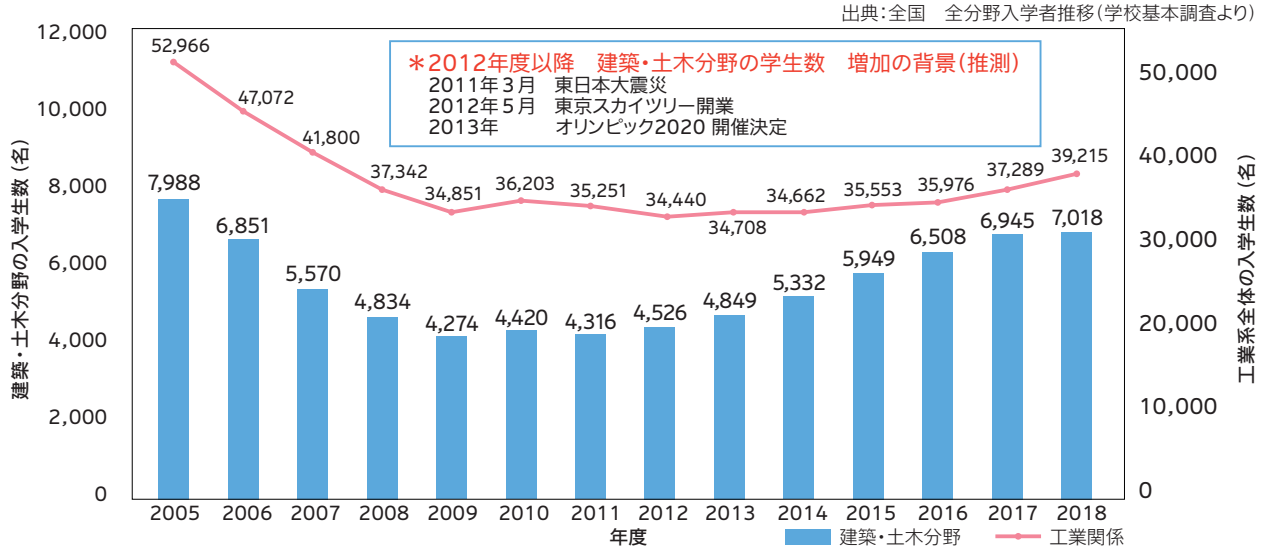
佐々木　建設系専門学校の入学者の現状をお聞かせください。

山　野　建築系の入学者数でみると、リーマンショックが起きた2008年頃は専門学校における建築系学科が廃科するほど厳しい冬の時代でした。その頃に底を打って、今はジリジリと数を戻しつつあります。一方で、土木は厳しい傾向が続いています。

鈴　木　土木系の入学者も同様に厳しい時代を経てきました。入学者の割合を

建築・土木分野と工業系全体の入学生数の推移

出典：全国　全分野入学者推移（学校基本調査より）



みると、建築系と土木系の比率が9対1となっています。建築はクリエイティブなイメージがあるのに対し、土木は泥臭いというイメージがあるのではないでしょうか。

佐々木　専門学校にはどのような人が入学してくるのか、その動機やきっかけはどのようなものなのでしょう?

山　野　工業高校からはもちろん、普通科からの入学者も多いです。大学に行きたかったけれど英語は嫌いというような人ですね。大学や短大を卒業・中退してから入学してくる人、または留学生やフリーター、社会人からの入学者も増えている傾向が見られます。

鈴　木　高校から入ってくる人は、すぐに仕事に就きたい、実践的な職業教育を受けてすぐに働きたいという意欲のある人が多い印象を受けます。

佐々木　デザイン・アート系の専門学校には「将来はこの仕事に就きたい」という強い動機を持った人が入学するイメージがあります。建築や土木も同様でしょうか?

鈴　木　そうですね。たとえば実家が自営で土木関係の仕事をしていて、将来は家業を継ぐと決めて入ってくる学生は比較的多く見受けられます。

山　野　建築系でも、家をリフォームしたなど、子どもの頃に建築系の仕事をする人と触れ合う機会があり、影響を受けた人が多いです。幼少の頃身近だったこともポイントになるようです。

鈴　木　小・中学生時代に、少しでも職業体験的なことを経験してもらえたら、もっと建設業に対するイメージも良くなるのではないかと思います。

佐々木　工業高校の先生にお聞きしたことがあるのですが、職業体験や出前授業を実現させる際に、教育委員会やPTAにアプローチしていく必要があるということですが、どのように取り組んでいますか。

山　野　はい。小・中学校の課外授業で建設系を取り上げてもらおうとアプローチしていますが、なかなか厳しいですね。まだまだ、数は少ないですが、インフラ整備を担っている建設に理解のある校長先生もいらっしゃるので、関係づくりを突破口にして、地道に取り組んでいます。

鈴　木　このほど高校ではGISや防災を扱う「地理総合」が必修科目になりますが、高校の先生はGISやデジタル地図等最新の技術について、全て理解している訳ではありません。そういう題材などを切り口に、出前授業の必要性を教育委員会に働きかけてはどうだろうかと、全国の測量専門学校に声をかけているところです。

佐々木　全国で実現するといいですね。たとえば、i-Constructionに欠かせないドローンや重機操縦については、専門学校の授業に取り入れているのでしょうか?

鈴　木　私の学校では企業の協力を得てドローン、ICT建機の操縦体験等を授業に取り入れ、建設業も技術革新の時代だということを積極的に説明できるようにしています。

山　野　オープンキャンパスや体験入学の際には、昔ながらの製図や模型作りなどより、BIMやCIM、ドローンなど、最新のテクノロジーのほうが学生の興味を引く傾向があります。若い担い手を確保するためには、新しい技術に触れられる環境を整備しておくことも、有効ではないかと思います。そういったことが若い人達に響くのではないかと思います。

マイスターのように リスペクトされる制度を

佐々木　ところで、建設業の担い手不足の要因のひとつに、建設業のイメージが昔と変わらない3Kではないかと思われていることが挙げられると思います。

鈴　木　そうですね。特に大きいのは

親御さんが持たれているイメージです。「土木＝3K」と思う方は少なくありません。このイメージを改善するためには、産官学での密な連携が必要不可欠だと個人的に考えています。

佐々木　欧米ではマイスター制度があり、専門技術を持った人はリスペクトの対象になっています。社会的地位も収入も高い。私どもではこれを参考に、建設キャリアアップシステムの構築を進めています。建設技能労働者の就業履歴や保有資格などを情報化して蓄積される仕組みを作り、すべての現場で共有することで、技能者が能力や経験に応じた処遇が受けられる環境を整備していこうというものです。

鈴　木　ドイツのマイスターは認定証をオフィスの目立つ場所に貼り出してアピールしています。そのようにステイタスが社会的に認められるような制度に育てていただきたいですね。

山　野　私の学校にはコンサート・イベント科があり、毎年すごい数の学生が入学してきます。アーティストはあこがれの存在として可視化されています。建築にはそんなスターがいますが、土木の分野でもそういう人が出てくれば、変わるのかもしれませんね。

鈴　木　今の日本は、大卒の資格が必要と思う人がいます。でも建設業は学歴よりも資格が大事で、実力主義の風通しの良さがあります。どんな一流大を卒業しても資格がなければ不要で、中卒でも一級建築士の資格があり、仕事ができれば生きていけます。そんな建設業の良さをどんどんアピールしたいと思いますね。

就職に関する専門学校の取り組み

佐々木　専門学校として、他の教育機関との差別化はどのように考えておられますか？

山　野　やはり職業実践的なところが最大の差別化ポイントです。研究は大学などにお任せし、とにかく実践的な教育をしていく。そのために、地域企業と連携して、インターンシップや出前授業に来てもらうなどの連携をしっかりやっていく必要があります。

佐々木　専門学校を卒業する人の、就職の状況はいかがでしょうか？

山　野　全国的に就職は好調に推移し、近年は概ね100%を維持しています。一方で、進学する人も増えてきていますね。2年制の専門学校を修了して専門士の称号を得た人が大学の2・3年次に編入したり、4年制の課程を終えて高度専門士となった人が大学院に進学するというケースも見られます。私は専門学校の使命は地域密着だと考えています。私どもでは“地学地就”という言葉を使っていますが、地域で学んだ人材を地域の企業に送り出すのが専門学校の役割だと認識しています。

鈴　木　土木系も就職率はほぼ100%なのですが、近年は求人倍率も10～20倍と非常に高水準です。中部8県のうち専門学校として土木科を設置しているのは1校だけ。しかも定員を確保できているのはここ1、2年ということもあり、求人倍率が、25倍を超えてしまうような年もあります。せっかく求人をいただいていながら、ひとりも人材を送り出せていない会社さんも多く、心苦しい限りです。

佐々木　求人の状況は想像以上に深刻ですね。それでも就職率100%というのは素晴らしいです。建築を学ぶ人の就職先はやはり建築系の企業ですか。

山　野　ほとんどがそうです。

佐々木　就職先を選ぶときの決め手になっているのは何だとお考えですか。

山　野　地元志向です。大手志向という人は2～3割くらいで、それ以外は地元の建設会社、たとえば先輩が就職したところに行くという人が多いです。私の学校では地元の三多摩建設業連合会と協力して、合同企業説明会や現場見学会を開催するなどの出会いの場を用意したり、産業界の方に出前授業をしていただく活動をしており、それがきっかけで就職が決まることもあります。建設系の学生約300名のうち、三多摩建設業連合会の会員企業に30名ほどが就職しています。

佐々木　仲の良い先輩がいるから安心できるなど、人的な関係性が大きいのですね。就職先の検討時には処遇や待遇なども重要なファクターになっているのでしょうか。

山　野　建設系企業志望の学生は、最初から完全週休2日が取れるとは考えていないようです。それよりも先輩との関係を重視しているように見受けられます。

佐々木　なるほど。土木系の場合はいかがですか。貴校で独自に取り組まれていることなどがありましたら、ぜひご紹介ください。

鈴　木　私どもの学校では卒業生で組織する校友会(OB会)が全国に17支部あり、後輩の就職活動や学生募集活動に協力してくれています。また、地区担当制を実施しており、一般教員が地区担当として企業訪問をするなど、卒業生や各企業と密接な関係を構築しています。そのため企業側のニーズをきちんと把握したうえで学生に紹介していますし、それがUターン就職などにも対応しています。また、1年生の時点で合同企業説明会に出席させています。これは、学生に早い段階から企業を見る目を養ってもらいたいことと、建設業の説明会にたくさん若い人が来てメディアに掲載されると、建設業が人気だと伝わります。先ほどからお話ししているイメージ戦略の一環ですね。

佐々木　それはなかなかいい作戦ですね。マスコミに好意的に取り上げられれば、イメージもかなり改善すると思います。

建設業界に対する提言

佐々木　建設業界の担い手確保・育成に関して、取り組んでいかなければいけないことや、建設業界に望むこと、その他、建設企業への要望等をお聞かせください。

山　野　担い手不足で建設業界の方々がとても忙しいのは、重々承知していま

建設業における女性活躍推進に向けた取組

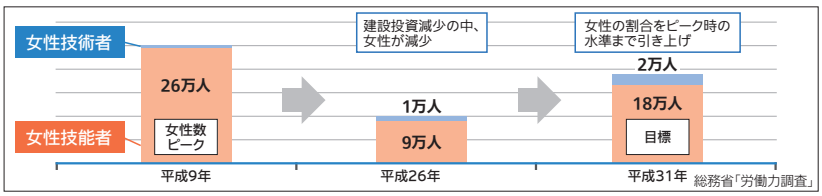
出典：国土交通省

計画の主なポイント

- ●建設業界を挙げて女性の更なる活躍を歓迎
- ●教育現場（小・中・高・大学等）と連携した建設業の魅力ややりがいを発信
- ●長時間労働の縮減や計画的な休暇取得など、女性も働きやすい現場をソフト面で整備
- ●女性も活用しやすい教育訓練の充実や、活躍する女性の表彰
- ●女性の活躍を支える地域ネットワークの活動を支援

計画の目標

女性技術者・技能者を5年で倍増　10万人 → 20万人



	以前	直近	将来
女性技術者	平成10年頃から女性技術者の採用を本格化（統計上把握可能なのは平成12年以降）	最近は女性技術者も増加 ※大手5社では新卒採用（技術者）の約1割が女性	女性技術者数を過去最高に
女性技能者	以前は今よりも多くの女性技能者が活躍（約6%）	建設投資急減の中、ピーク時の1/3に減少（約3%）	女性技能者の割合を最高比率へ引き上げ（約6%）

す。しかしながら、建設企業は、技術者・技能者の確保に向けて、たくさん社会貢献をしていく必要があると思います。例えば、30代の第一線で活躍している技術者・技能者の方々が出前講座などに出向いて、建設業の楽しさ、魅力、やりがいを伝えていかなければいけません。

鈴　木　依然として、建設業新規入職者の離職率が高いということが問題だと思います。せっかく業界に就職したのに、「辞めても仕方がない」と考えている企業側の意識を変えていく必要があります。新卒者を育成する体制が社長からトップダウンで徹底されている企業は、離職率が低いのです。これまでやってきたやり方を変えて、企業側として「辞めさせないための取組み」を徹底する必要があります。離職させないための取り組みをぜひ実施していただきたい。建設業を廃業せざるを得ない企業を出さないためにも人を育てる意識の改革が必要だと思います。

佐々木　女性が建設業で働くことや、学び直しについてはどのようにお考えでしょうか？

鈴　木　現場のトイレがきれいなことはいいことだと思いますが、それ以上に一人の技術者、技能者として見られたいという女性の声をよく聞きます。輝いている女性は、男性と同等以上に渡り合って、活躍しています。

佐々木　建設業に就職した若者は3年で5割の方が退職されてしまうというデータもあり、その大きな原因は上司の無理解だそうです。女性を増やすためだけでなく、そもそも新規入職者を受け入れる現場づくりも、進めていかなければなりませんね。

山　野　学び直し人材を活用するリカレント教育・訓練も国の施策として注目されています。この分野も取り組んでいく必要がありますね。

佐々木　様々な理由で定職についていない方も多くいますが建設業の仕事が合って、社会復帰につながったという話もあります。色々な背景を持つ方々に建設業界で仕事をしていただくことができないかと思います。

山　野　2018年8月、専門学校等において、社会人の職業に必要な能力の向上及びキャリア形成を図る機会の拡大することを目的として、「専修学校におけるキャリア形成促進プログラムの認定に関する規程」が施行されました。また同年9月に厚生労働省の専門実践教育訓練給付金の指定基準の見直しが行われ、キャリア形成促進プログラムとして認定された課程のうち一定の基準を満たすものについて、専門実践教育訓練給付金の支給対象となりました。最近は正社員として雇用した人を、入社後に専門学校に送り込むという取組をしている企業もあります。

鈴　木　本校の夜間部に採用者全員を入学させる会社さんも出てきました。そのように専門学校を活用していただけるのは有意義なことだと考えます。土木系の中でも、特に測量分野は人材が不足しています。そこで、普通科や農業系の高校を卒業した人を採用し、専門学校で教育訓練を受けさせ、技術者として育成するという取組もスタートしています。産官学で連携し、具体的に実りのあることをやっていきたいですね。そのために専門学校が貢献できることはたくさんあると考えます。

佐々木　私どもも、各方面に働きかけつつ、できるところから取り組んでいきたいと思います。今後ともぜひご協力をお願いします。本日はありがとうございました。

フォーカス

FOCUS 第53回

現場で働く方々の生の声を もっと生徒に届けたいと思っています。

四大工業地帯の一つである、北九州工業地帯。その近くに位置するのが、福岡県立八幡工業高等学校です。高い志と規範意識を持つ意欲あふれる、たくましい生徒を育成するという教育方針のもと、国内はもちろん世界で活躍する人材を輩出しています。土木科で教鞭をとる重松佳樹先生に、工業高校の在り方とこれからの建設業界への期待をお伺いしました。

福岡県立八幡工業高等学校
土木科 教諭
重松 佳樹 先生（3年生担任）

生徒の意識を変える カリキュラム

福岡県立八幡工業高等学校は、本年度創立84年を迎える伝統ある専門高校です。より生徒の柔軟な進路選択に対応できるよう、平成19年度から機械系、電気系、土木系の3系8コースのコース選択制を導入しました。1年次は基礎・基本を学び、2年次からは、興味・関心が高い「得意技コース」が選択でき、専門性の高い知識・技術が習得可能となっています。

校舎外観。創立84年の伝統を誇る専門高校です。

■ 土木系の特徴を教えてください。

土木系は、設計施工と施工実務の2コースがあります。一番のアピールポイントは、バックホウとブルドーザーを所有しており、実習を重視しているところです。カリキュラムに小型車両系建設機械運転の特別教育を組み込んでいます。2年次に特別講習を受講し、卒業時に修了証が交付されます。特別講習後は、実習の時間にバックホウ・ブルドーザーの操作を反復で行わせ、技能の向上につなげています。そのほか、大型クレーンの操作体験なども行っています。

また、地元企業や建設業団体にご協力いただき、各学年とも、年に最低1回は出前講座、現場見学会を開催し、2年次には一週間のインターンシップも実施しています。最近は港湾土木についての理解を深めるために、関門航路の浚渫（しゅんせつ）現場を見学したり、管工事実習やクレーン講習会を開催しました。

さらに、教員として現場体験する企業研修に参加し、浚渫船を自社で保有している港湾関連の企業に4日間お世話になりました。実際に浚渫作業をしている現場に同行し、船長に仕事の話を聞いたり、地盤改良工事現場の説明が聞けるなど、とても貴重な体験でした。この体験を生徒たちに話すと、インターンシップへの参加を不安に思う生徒も意欲的になり、「先生の言った通りだった、参加して良かった」とうれしい言葉が帰ってきました。今後も積極的に企業研修に参加して行こうと思います。

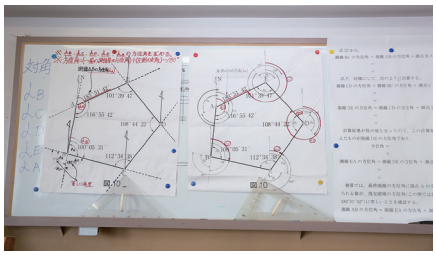
生徒一人ひとりに寄り添い、ともに歩む

■ 重松先生ならではの 教育方針はありますか？

生徒が抱えている様々な環境や問題、これまでの経験など一人ひとりの状況は違います。教員としての考えを押し付け

学校所有のバックホウとブルドーザー。2年次には運転実習を行っています。

「生徒たちの拠り所となる存在を目指しています」と語る重松先生。



土木の知識や技術を学ぶ実習室。

るのではなく、生徒の想いに耳を傾け、寄り添いながら一歩ずつともに歩める指導を心掛けています。

大学時代のアルバイト先の上司から言われたことがきっかけで、「日々の積み重ね」という言葉が好きなのですが、今がまさに実践の時だと感じます。生徒との信頼関係を築くことはもちろん、生徒にとっても大切な時期なので、学業や進路の達成に少しでも力になれるよう、日々丁寧に向き合いたいと思っています。実は、志望した教員の採用枠が少なく教員の夢を諦めかけた時がありました。しかし、ようやく八幡工業高校で教育実習が実現し、日々楽しそうにイキイキと学校生活を過ごしている生徒たちに接し、改めて教員を目指そうと決意できました。私を教員にしてくれた生徒たちの拠り所になる存在を目指し、精進しようと思います。

また、私は大学に入学して初めて、工業・土木という分野に関わりました。だからこそ、工業の面白さや楽しさを客観的に伝えることができると思っています。国内・国外にかかわらず建設業界で活躍できる人間を育成し、教育という立場から建設業界の発展に貢献していきます。

就職率100%の工業高校が抱える課題

■ 進路の状況、就職先について教えてください。

本校では約8割の生徒が就職を希望しています。近年は大変有難いことに県内・県外を問わず多くの企業から求人をいただいています。それにより生徒たちは、これまで以上に希望する進路を選択できています。また、直近の不況の時代から現在に至るまで就職率は、100%を記録しています。傾向としては、地元での就職を希望する生徒が多いです。

土木系では約9割の生徒が就職を希望し、そのうち約半数が建設業に、半数は製造業や自動車産業などの他業種に就職しています。建設業に就職する者は、陸上、港湾土木がほとんどで、鉄道、設計関連などに進む生徒は少数です。また、近年は公務員志望の生徒も増え、数名の生徒は土木系の公務員になっています。

バックホウの操作実習に臨む生徒。

■ 土木系の進路状況、就職先について課題はありますか？

約半数しか建設業に進む生徒がいないことです。今後建設業に進もうとする生徒を増やすには、教員が授業や実習を通してどれだけ建設業の魅力ややりがいを生徒に伝えられるかというのが、一つのポイントだと思っています。また最新の技術や現場の状況などを肌で感じることは、興味を持つ大きなきっかけになるので、建設会社等のご協力をいただきながら、出前講座や現場見学会の機会を増やしていきたいと考えています。

高速道路延長工事現場見学会の様子。

建設業界で活躍する方々へ 先生からひとこと！

出前講座や現場見学会、インターンシップなどで生徒には、仕事をしていて喜びを感じた点、仕事のやりがいなど、実際の体験を交えてお話ししていただけると、建設業に対するイメージや意識に変化が出てくると考えます。3年生を対象に本校の各系の卒業生を招いて進路ガイダンスを行っているのですが、生徒たちはとても熱心に話を聞き、質疑応答の時間には多くの質問が飛び交っています。実際に現場で働く人の生の声を聞くことは、生徒にとって非常に重要です。建設業界の未来を担う若い力の育成のために、今後も皆様のご協力を賜りたく、宜しくお願い致します。

福岡県立八幡工業高等学校　〒806-0068 福岡県北九州市八幡西区別所町1番1号　WEB http://yahata-tech.fku.ed.jp/Default1.aspx

地方圏の地価を下支え
インバウンド需要拡大が地価上昇要因に

みずほ総合研究所 エグゼクティブエコノミスト　高田 創

2018年は不動産市場がピークアウトするとの懸念がくすぶり続けたが、結局、最後まで不動産市況は堅調さを維持した。三大都市圏だけではなく、外国人観光客の地方訪問増加により、地方圏の商業地および住宅地ともに、地価が持ち直し傾向にある。そこで今回は、インバウンド需要拡大と地価の関連や、地方圏への外国人観光客訪問増加に向けての対応などについて解説する。

地方圏の地価もほぼ底入れ

2018年の地価の動向をみると、三大都市圏の商業地や住宅地の前年比伸び率が拡大したほか、地方圏も商業地および住宅地ともに前年比マイナス幅が縮小し、地方圏の不動産もほぼ底入れしたといえる(図1)。

みずほ総合研究所が行ったテキスト分析によると、訪日外国人客の増加がホテルや店舗などの需要を高め、地価の押し上げに寄与している可能性が示されている。また、定量分析によると、外国人宿泊客の増加が商業地および住宅地の地価を大きく押し上げている。

特に、人口が減少傾向にある地方圏では、外国人観光客の訪問増加が地価の回復に関係しているとみられる。地方圏における外国人延べ宿泊者数シェアをみると、地方圏のシェアは近年徐々に高まっており(図2)、地方における外国人観光客の増加が、来訪地の活性化に寄与していると考えられる。

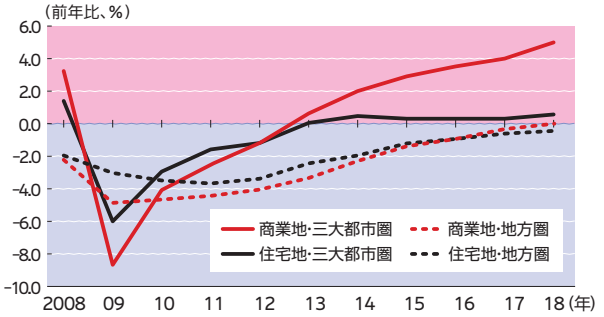
国内旅行の需要喚起がポイント

外国人観光客の増加は、地方圏の不動産市場の活性化に向けたひとつの切り札になりうる。ただし、外国人観光客の地方訪問を促すには、旅客収容能力の拡大や二次交通の整備に加え、地域独自の体験を軸としたコト消費による観光資源の創出なども必要である。

また、外国人観光客の受け入れ環境の整備を進めるに当たっては、日本人旅行者をどれだけ誘致できるかも重要になる。なぜなら、延べ宿泊者数の大部分は、依然として日本人が占めているからである(図3)。国内旅行需要が喚起されれば、交通網の整備や宿泊施設の拡充など、受け入れ環境整備が促進され、結果として外国人観光客の誘致にも有利に働くことになる。

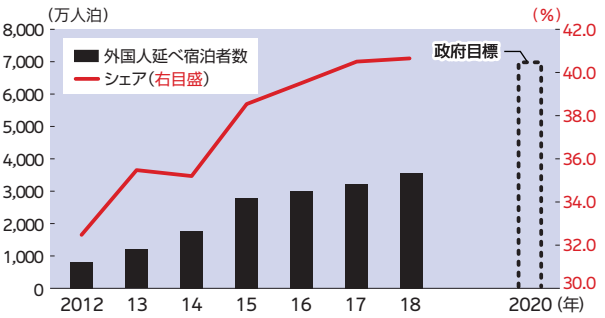
地方圏では都市圏以上に人口減少が大きい。この危機を食い止めるためには、外国人観光客および日本人旅行者の誘致による交流人口の増加が数少ない希望の光のひとつになっているといえよう。外国人と日本人の旅行需要をどう取り込んでいくか、地域興しの鍵もインバウンドと国内旅行が結びつくことによって可能となる好循環の実現にある。

図1 地価の推移



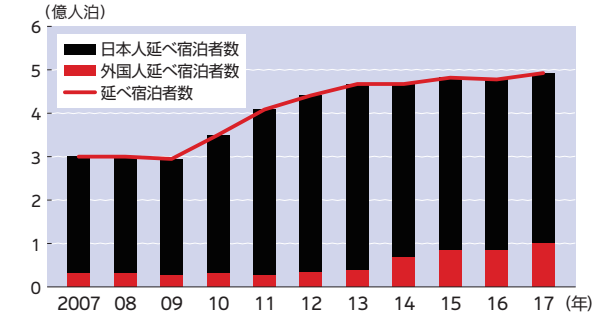
(注)2018年7月1日時点。
(資料)国土交通省「都道府県地価調査」よりみずほ総合研究所作成

図2 地方圏における外国人延べ宿泊者



(注)2018年は1～10月までの実績値で延伸。
(資料)観光庁「宿泊旅行統計調査」よりみずほ総合研究所作成

図3 延べ宿泊者数



(資料)観光庁「宿泊旅行統計調査」よりみずほ総合研究所作成

公共工事の設計労務単価
7年連続引き上げで過去最高に

日経BP総研上席研究員　野中 賢

建設投資が増加傾向にあるなか、建設業界は深刻な人手不足が続く。これに対応すべく、国土交通省は公共工事設計労務単価を改定。2019年3月から適用する単価を、前年度に比べて平均4.1%引き上げた（加重平均）。労務単価は2013年度以降、毎年大幅に引き上げられており、公表を始めた1997年度以降で最高額となった。

公共工事設計労務単価は、建設業で働く人の賃金を決める基になるものだ。直轄・補助工事を対象に実態調査を行って実勢価格を反映し、各年度当初（近年は2月または3月）に改定を実施している。

今年は2月22日に、2019年3月から適用する単価を発表した。全国・全職種を加重平均した労務単価は1万9392円。前年度から、全国・全職種の単純平均で3.3%、同加重平均で4.1%、それぞれ引き上げた。国土交通省が労務単価の公表を始めた1997年以降では最高額を記録した（下図）。

最近は毎年2～6%ずつ引き上げ 19年度は12年度のほぼ1.5倍に

公表初年度の1997年、労務単価は1万9121円（以下も、単価や増減率は全国・全職種の加重平均）だった。1999年度まではほぼ横ばいだったものの、2000年度は前年度比12.5%減と、大幅に引き下げられた。その後も2012年度まで、ほぼ一貫して下落。2012年度は1万3072円と、1997年度に比べると31.6%も少なくなっていた。

2012年といえば、前年に東日本大震災が発生し、その復旧・復興需要が急増してきたタイミングだ。人手の不足感は一気に高まり、建設業界では将来の担い手不足への危機感がにわかに叫ばれ始めた。

担い手確保には、給与や福利厚生といった待遇の改善のほか、業界の長期的な安定が欠かせない。そこで国土交通省は2013年度から、政策的に労務単価を引き上げる策を講じた。社会保険未加入企業の加入促進を図る目的で、法定福利費相当額を設計労務単価に含めるように算定方法を変更した。

まずは2013年度、前年度に比べて16.1%の大幅引き上げを実施。その後も毎年2～6%ずつ上昇した。その結果、2019年度の労務単価は、2012年度比で48.3%増となった。

職種別に見ると、前年度に比べて最も上昇率が高かったのは、全国的に不足が指摘されている交通誘導警備員だ。前年度に比べ、交通誘導警備員Bが7.0%、同Aが6.8%、それぞれ上昇した。トンネル特殊工、配管工、普通作業員がそれに続く。

東日本大震災の「被災地加算」は継続 東北地方は3県以外でも高い伸び率

労務単価は全国でおしなべて上昇しているが、上げ幅は地域によって偏りがある。

例えば、東日本大震災で被災した岩手県、宮城県、福島県。これら3県を対象に実施してきた労務単価の引き上げ措置は、2019年度も継続する。被災3県の平均を見ると、2019年度は2012年度に比べて60.4%の増額になった。

また、東北地方は被災3県に限らず労務単価の上昇が目立つ。例えば普通作業員と鉄筋工について、2012年度から2019年度までの上昇率を都道府県ごとに比べてみると、上位6カ所は全て東北地方だった。秋田県が普通作業員で3位、鉄筋工で2位、山形県が普通作業員と鉄筋工でそれぞれ4位といった具合だ。石川県や富山県など、北陸地方の上昇も目立つ。一方で、近畿地方と中国地方の各府県は上昇率が鈍い傾向が見られた。

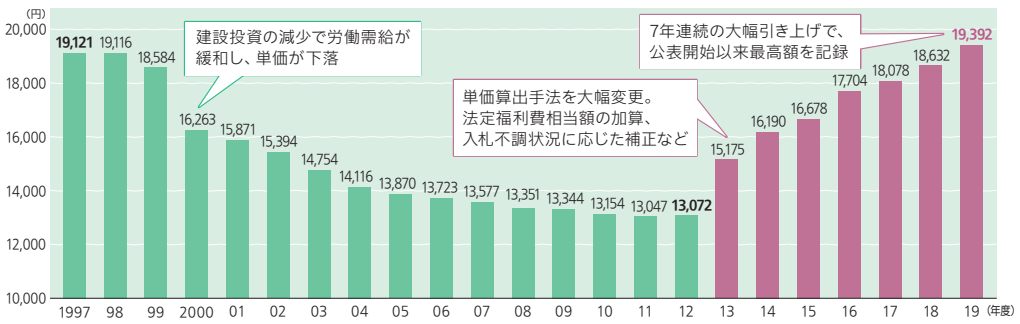
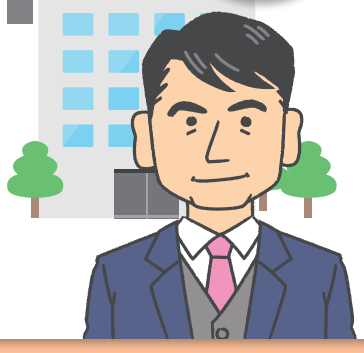


図 公共工事設計労務単価の推移

1日8時間当たりの単価。全国・全職種の加重平均値を示した。2014～16年度は各年の2月から、17～19年度は各年の3月から適用。加重平均値は、2013年度の標本数を基にラスパイレス式で算出。2006年度以前は交通誘導警備員がA・Bに分かれていなかったため、交通誘導警備員A・Bを足した人数で加重平均した。国土交通省の資料を基に作成。

新章 第2話



働き方改革と若者の定着の実践に向けて

若い人材の確保と定着

若い職員がイキイキと楽しく働くためには、画一的な指導・教育を行うのではなく、若者一人一人の能力と意欲に応じた指導を行うことが大切です。そこで、部下の状況に合わせる指導方法について、実践的にわかりやすく解説します。

実施計画検討会

方針の明確化

賢説課長：当社の若い職員の3年定着率はどうかな？

袋小路君：工事部は約50%、管理部門は100%です。

超勤課長：工事部の定着率を上げるための改善点はどうかな？

問題の抽出

勤怠さん：先日、工事部の若手と面談したときに、「上司によって、やたら細かかったり、大ざっぱな説明だったりで、まちまちの指導を受けている。」と言ってました。

袋小路君：指導方法が統一されてなくて上司任せになっているってことですね。どうやら、指導者側に問題があるようですね。

賢説課長：定着率向上のために、指導方法を見直しする必要がありますね。

超勤課長：上司は、自分が経験してきたことを基に、良かれと思って教えているのだよ。

賢説課長：それは、わかります。しかし、若者の定着と育成には個人ごとの能力に見合った指導法が大切です。勤怠さん、このまえ参加した建設業協会主催の『働き方改革理論と実践セミナー』の内容を話してください。

Pick Up

勤怠さん：セミナーでは、「①人間関係を良好にし、やる気を引き出すこと」、「②部下の成熟度に応じた指導をすること」について話がありました。特に②のポイントとして、**『部下の能力と意欲に応じて支援と指示のバランスを変えること』**が効率的で生産性の向上につながるとのことでした。

問題解決・具体的な指導法

賢説課長：若い人の能力と意欲の成熟度に合わせて、指導方法に支援と指示を組み合わせて人材育成していくことが大切なんですね。

賢説課長：具体的には、「指示的指導法は新人に、説得的指導法は中堅、参加的指導法はベテラン、委任的指導法は管理職見習」を対象にするようなイメージですね。

超勤課長：なるほど、新人に中堅が一歩ずつ指導すると同時に、中堅は主体的に新人を教育することで自分も成長することができる。ベテランは中堅を支援することで、相互に「意欲」が高まり「能力」向上が図れるってことか。

検討会のポイント

賢説課長：具体的になってきましたね。**人材の育成方法を見直し、定着率の向上のために我が社の指導マニュアルを策定しましょう。**実践策は袋小路君を中心にまとめてください。

袋小路君：また～！僕がまとめですか。今月はまだ一回しかデートしていません。トホホ。勤怠さん助けて－。

次回検討会の議題

賢説課長：それでは、次回の会議はホワイトボードに示す技術工夫発表会と全社員の気を束ねる実践としてNo.1活動を利用した生産性向上について検討しましょう。

生産性向上に向けて検討

①全社員と協力会社のモチベーションの向上のために現在の技術発表会を創意工夫発表会にする
②個人の能力(技能・知識)の見える化

⇩ 全社員の気を束ねる実践

日常の活動としてNo.1活動の利用

原案作成

手島 伸夫

一部上場建設会社に34年勤務して、社長室次長、ISO品質保証システム部長を歴任。中小企業診断士、社会保険労務士、1級土木施工管理技士

監修

廣津 栄三郎

一部上場建設会社で技術営業部長や関連会社の社長を歴任後、複数の海外企業にてコンサルティングを行う。技術士、測量士、工学博士

スクリプト

本シリーズは中小建設産業の働き方改革を成功に導くための「職場改善と労働条件の改善」、「若い人材の確保と定着」、「生産性の向上」の具体的施策を全5回で紹介します。大都市の郊外にある老舗建設株式会社（従業員約50名）を舞台として、従業員がイキイキと楽しく働いて、若い人材の定着と生産性の向上を図る経営力強化の方向性を従業員の会話方式をベースに説明します。

老舗建設の人物紹介

賢説 真面目 事務課長

40歳で、経理・総務のベテラン。袋小路君と良いコンビ。趣味は落語を聞くこととサッカー観戦。

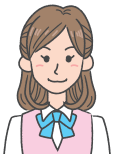
超勤 和夫 工事部課長

40歳。几帳面な工事課長。袋小路君の天敵。神経質で額に皺を常に浮かせて、せかせかと歩く。趣味は川釣り。

袋小路 カイト 事務課員

25歳。時々ポカをするが、仕事熱心。工事課長が大の苦手。楽しみは彼女とのデート。

勤怠 はるみ 事務課員



28歳で、入社10年、実務に詳しい。石頭工事部長にもズバズバものを言う明るい性格。みんなのアイドルである。

Pick Up

建設業における部下の成熟度と効果的な指導法
（SL理論を参考にした）

この指導方法では部下の成熟度を能力と意欲によって評価します。

能力とは、技術力（段取り力、施工力、専門知識）、人間関係を円滑にする人間関係力、戦略的な能力などがあげられますが、老舗建設では、状況に応じて判断して物事を進める段取り力、施工力、専門知識とします。

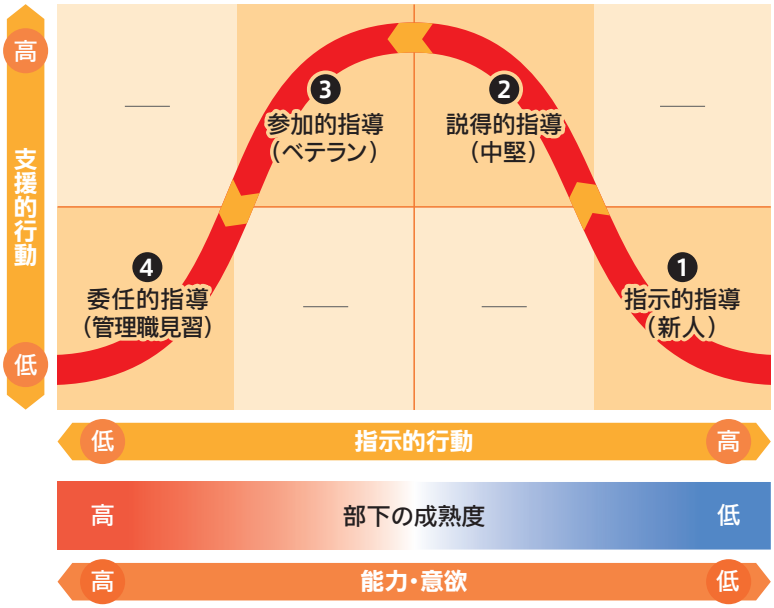
意欲とは、目標を達成しようと積極的に動く意志活動とします。従って困難な問題解決するために、状況に応じて、人を動かす努力も必要です。

成熟度の低い部下とは、能力、意欲とも低い人です。

成熟度の高い部下とは、能力、意欲とも高い人です。

この指導方法では、部下の状況に合わせて指示的指導と支援的指導の二つの側面から適切に指導法を変えることが大切です。

現場の具体的な4つ指導方法例では、社員の『能力と意欲』の評価を基に、『指示的、説得的、参加的、委任的』の4つの指導方法を適切に使い分けています。それが、効率的な人材育成につながります。



指導法	建設現場の具体的な指導事例
❶ 指示的指導法	**具体的に指示し、事細かに監督する** 問題点とコストダウンの方法を詳細に説明して、改善方法についても細かく指示命令とチェックを行い、一歩ずつ教え助ける等
❷ 説得的指導法	**考えを説明し疑問に答える** 「あの機材を使うとコストダウンになる」と指示するが、実行予算を自分で作らせて、主体的行動になるように支援して説得する等
❸ 参加的指導法	**考えを合わせて決められるように仕向ける** 協力会社との交渉などにも部下を参画させることにより意欲を引き出し、実行予算の進め方については任せて援助を中心にする等
❹ 委任的指導法	**仕事遂行の責任を委ねる** 原価管理などの目標設定を一緒に行うが、具体的な達成方法は部下に任せて、自律行動を奨励する等。

KAWAII DOBOKU
かわいい土木
MIKAMI MIE
第21回

ズラリと並んだ「水」型橋脚が支える“空中の川”

谷や川、道路などを越えて水を運ぶために架ける水路橋。橋の上に水圧管を載せるタイプと、上部構造をそのまま水路として使うタイプがある。栃木県那須町にある膳棚水路橋は後者。水路の側壁を支える三角形のバットレス（控え壁）や、「水」という文字にも見える特殊なカタチの橋脚など、地味ながらよく見るととても凝ったデザインだ。

ぜんだなすいろきょう
膳棚水路橋
栃木県那須町

Photo・Text：フリーライター　三上　美絵

大成建設広報部勤務を経てフリーライターとなる。「日経コンストラクション」（日経 BP 社）や土木学会誌などの建設系雑誌を中心に記事を執筆。広報研修講師、社内報コンペティション審査員。著書『土木の広報～『対話』でよみがえる誇りとやりがい～』（日経 BP　社刊、共著）

空中を川が流れている――。水路橋を上から覗くと、開渠（蓋のない水路）の中を勢いよく流れる水が見えた。地上では、水音は聞こえても、桁の上がどうなっているかは分からない。斜面をよじ登ってみたら、いきなり水だったのでちょっと驚く。橋の上を水が流れていくさまは、なかなかレアな光景だ。

自然流下の勾配を保つため高所につくられた水路橋

膳棚水路橋は、栃木県の北東部、那須町にある水力発電所「黒川発電所」へ発電用水を導水するための橋だ。

水力発電では、水の落差を利用して発電用タービンを回す。黒川発電所はダムを持たず、川の上流から取水した水を自然流下させることで落差を得る水路式の水力発電だ。それには、取水口から一定以上の勾配を維持したまま発電所まで導水する必要がある。

取水口は黒川と余笹川の上流2カ所にあり、そこから取水した水が、約5kmの導水路を通って発電所へ送られる。区間の大部分は山間部なのでトンネルだが、この場所だけ平地を通ることから、高さ4.5mの位置に橋が架けられた。

黒川発電所と膳棚水路橋が竣工したのは、1921年（大正10年）。当時は電力の自由競争時代で、全国各地で数多くの中小電力会社がしのぎを削っていた。黒川発電所も、当初に計画をしていた地元の大田原電気から、合併によって誕生した塩那電気が引き継いで着工した。

塩那電気は栃木県北部の大半を供給区域としていたものの、面積が広く、そもそも発電所の出力が足りないうえに、配電線延長が長いことによる電力ロスが加わり、需要に供給が追いついていなかった。

この課題を解決するために建設されたのが、出力800kWの黒川発電所だ。塩那電気の中では最大規模の発電所となった。塩那電気はその後も合併を繰り返し、1951年の電気事業再編成で東京電力となって現在に至る。

◀上から見ると、水路橋の上部構造自体が水路になっているのが分かる。

芸術性へのこだわりが生んだ「水」型橋脚と三角バットレス

膳棚水路橋に近づいてみると、橋脚の形が「水」になっていることに気づいた。橋の構造はRC（鉄筋コンクリート）ラーメンで、橋脚は3本の柱にX字型の筋交いを組み合わせたものが1セットになっている。橋の下に立つと、橋脚が水水水水…と連なって見えてドボかわいい。

上部構造も、水路の側壁を支える三角形のバットレスが幾何学的なリズムを生んでいて見た目にも楽しい。RCラーメン自体が大正期にはまだ珍しく、土木学会関東支部によれば「この時代の発電用水路橋では日本唯一と見られる」という。

膳棚水路橋と黒川発電所を建設したのは、静岡の勝呂組だ。同社は1962年に住友建設、つまり現在の三井住友建設に合併され、今はもうない。だが、その10年前に発行された社史「勝呂組創業七十年誌」を図書館で見つけた。

驚いたのは、その冒頭の文章のタイトルだ。「建築土木の芸術的性格」とある。

▲ズラリと並んだ「水」のカタチの橋脚が、自ら水路橋であることを主張している。ただし、意図されたものかどうかは神のみぞ知る。

そこには「建築は芸術的創造であり、城郭のように建築と土木の合成体もあることから、土木もまた美的芸術的性格を帯びている」という趣旨が強調されていた。

静岡を拠点とする勝呂組がこの工事を受注した理由は、水力発電に実績があったからだ。1916年に社運をかけて山梨の桂川電力の河口湖発電所工事を受注し、苦労を重ねながら難工事を見事に竣工させた。社史の回想録の中で当時の社長は「一時は現場主任とダイナマイトを抱いて爆死し、責任を取ることを覚悟した」とまで語っている。

膳棚水路橋のデザインが同社によるものかどうかは、資料からは分からなかった。塩那電気の設計かもしれないが、水路橋は電気系統とは直接関わらない付帯工事であることを考えると、勝呂組の設計施工もありうるのではないか。

いずれにしても、膳棚水路橋の構造美、機能美は、土木の芸術性を謳う勝呂組がつくり上げたもの。橋脚が「水」の文字に見えるのは単なる偶然かもしれないが、デザインにこだわるこの会社なら、意図的にそんな意匠を取り入れたとしても不思議はないように思えるのだ。

▲水路橋の上流側。導水トンネルから開渠に切り替わる。

▲導水路の最終地点。黒川発電所の屋根が見える。

▲膳棚水路橋は、国道294号の脇の田んぼを跨ぐ形で架けられている。

アクセス
access

JR黒磯駅から車で約25分。町民バスの場合、「追分・黒磯駅線」の稲沢停留所から膳棚水路橋まで徒歩7分ほど。そこから黒川発電所へは逆方向に徒歩約20分。

しんこうTODAY

SHINKOU TODAY

金融支援事業に係る最近の取り組み

3月1日『金融事業説明会』を開催しました。2018年度は「建設産業行政にかかる最新の動き」と「金融事業及び組合事業の活性化」をテーマとし、日頃から本財団と繋がりのある協同組合など、多くの方にご参加を頂きました。

会の冒頭、国土交通省からの基調講演として、「建設業を取り巻く現状と課題」、「公共工事設計労務単価」、「建設キャリアアップシステム」や「働き方改革」等について、事例を交えながら、ご説明を頂きました。また、その後に行われた取組事例の報告及び情報交換において、福島県建設業協同組合からは、「震災後の対応」、「情報共有システム事業」をテーマに、原発事故にともなう除染作業の現状や、福島県からの発注工事に係る工事情報共有システム等についての発表、全国中小企業団体中央会からは、組合の事業に関する最新情報の提供があり、質疑応答の場では参加者による活発な意見交換が行われました。

建設キャリアアップシステム　本運用開始

（運営主体:一般財団法人建設業振興基金　建設キャリアアップ事業本部）

建設キャリアアップシステムは、本年1月15日から24箇所の現場で実施した限定運用を経て、4月1日より本運用を開始しました。

本運用開始にあたっては、就業履歴の登録開始に加えて、現場情報や蓄積した就業履歴など、各種登録情報の閲覧ができる機能などの拡充をしています。

就業履歴情報の蓄積をするためには、まず元請事業者が現場情報の登録を行い、その後、元請事業者と下請事業者が連携して施工体制等の登録を行う必要があります。さらに、元請事業者は就業履歴登録アプリ「建レコ」※をダウンロードしたPC、iPad、iPhoneとカードリーダーを現場に用意していただくことが必要です。そして、登録された現場に入場する技能者はそのカードリーダーに建設キャリアアップカードをかざすことで、就業履歴情報が蓄積されていきます。

2019年度の建設キャリアアップシステムへの登録については、技能者登録者数100万人（累計）、事業者登録数13万社（累計）を目指しています。

目標を達成すべく、運営主体である一般財団法人建設業振興基金では、登録申請からカード・ID発行までの審査期間短縮をはじめ、事業規模等に応じたわかりやすいマニュアルの作成、現場導入手順等のコンテンツの充実など、円滑な登録申請及び、現場での運用を実現するために、建設キャリアアップシステムへの申請や現場への導入等の支援体制を構築し、ユーザーの皆さまにとって、建設キャリアアップシステムが利用しやすい環境を整えていけるよう努めて参ります。

CCUS

※「建レコ」について
「建レコ」とは、技能者の就業履歴登録を目的としたアプリケーションです。
PC、iPad、iPhoneにインストールをすることによりご利用頂けます。
使用方法につきましては、専用HPでご確認下さい。
（URL:https://www.auth.ccus.jp/KenReco/）

日建協加盟組合

青木あすなろ建設職員組合
浅沼組職員組合
安藤・間職員組合
奥村組職員組合
鴻池組労働組合
五洋建設労働組合
佐藤工業職員組合
佐藤秀労働組合
シミズユニオン
鈴与三和グループ労働組合
錢高組労働組合
大鉄工業労働組合
大日本土木労働組合
大豊建設労働組合
鉄建建設職員組合
東鉄工業労働組合
東洋建設職員労働組合
戸田建設職員組合
飛島建設労働組合
中山組職員労働組合
西松建設職員組合
日本国土開発コミュニケーション協議会
日本総合住生活労働組合
野村労働組合
ピーエス三菱労働組合
藤木工務店労働組合
フジタ職員組合
松村組職員組合
馬淵建設職員組合
丸彦渡辺建設職員組合
三井住友建設社員組合
宮地建設工業労働組合
名工建設職員組合
横河ブリッジ労働組合
りんかい日産建設職員組合

一人一人の意識改革！
皆で集まり大きな改革!!
実現させよう 土曜閉所

後援
内閣府　厚生労働省　国土交通省
一般社団法人 日本建設業連合会　一般社団法人 全国建設業協会　一般社団法人 日本建設業経営協会　一般社団法人 情報通信エンジニアリング協会　建設業労働災害防止協会　一般財団法人 建設業振興基金
公益社団法人 日本建築士会連合会　公益社団法人 日本建築家協会　一般社団法人 日本コンストラクション・マネジメント協会　一般社団法人 建設コンサルタンツ協会

4週8閉所ステップアップ運動

日建協は 土曜閉所を増やす運動に取り組んでいます

6月は時短推進強化月間です

ワーク・ライフ・バランス実現のために建設産労懇の仲間とともに土曜閉所に取り組んでいます

（日建協・全電工労連・基幹労連建設部会・道建労協・通建連合・長谷工グループ労働組合）

今回のポスターのキャッチフレーズは、青木庄作さん（飛島建設労働組合）の作品です。

カエル！ジャパン
Change! JPN

日建協
2019.06

建設業しんこう
May.2019 No.508
令和元年5月10日発行
第44巻 第2号 通巻第508号
■編集・発行
一般財団法人 建設業振興基金
〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-2-12虎ノ門4丁目 MTビル2号館

PROFESSIONAL

コミュニケーションを大切に、魅力ある現場づくりを心がける。

登録配管基幹技能者

協立工業株式会社 取締役 工事部長

宮本 忠弘（みやもと ただひろ）さん

1972年11月生まれ　東京都出身

長く働く秘訣！は“自分らしく、自然体”でいること

定時制高校に通っていた時に、友人の誘いで始めたアルバイトが空調衛生設備の仕事だった。建設業は、「自分の形を変えずに、自然なスタイルで働ける」ところが自分には合っていると感じ、アルバイト先にそのまま就職。初めて現場に入った時のことを聞くと、「建設業は雑多なイメージがありましたが、実際はとても几帳面な人ばかりで驚きました。安全と品質保証が第一の建設業においては、整理整頓をするのは当然のことだと思いますが、当時は良い意味でギャップを感じました」と宮本忠弘さんは言う。

登録基幹技能者については、周りの職人が徐々に認定を受け始めたことがきっかけとなり、平成22年に登録配管基幹技能者講習を受講。登録基幹技能者となったことで、安全書類の登録基幹技能者欄に自分の名前が記載され、責任感がそれまで以上に増したそうだ。

宮本さんは、これまでに多くの現場を施工している。特に印象に残っている建造物を聞くと、「TBSビッグハットです。有名な建造物なので今でも人に自慢できます。余談ですが、有名人に会えたのも嬉しかった」と笑う。

建設現場の本当の姿を自分の目で確かめて欲しい

そんな宮本さんが、日頃から大切にしているのはコミュニケーション。明るい現場は気持ちを前向きにさせ、良い仕事ができるからだという。新人にも積極的に声をかけ、良いところはしっかりと褒める、「人は褒められると自信につながる」という思いからだ。空調衛生設備の魅力を聞いてみると「現場に最初から最後までいるので、全体を見られるところ。自分が作った建造物が残るところ」だと返ってきた。冷暖房や給排水設備で快適な生活環境をつくり出す他、現場トイレの設置も行っているそうだ。建設業への入職を考えている若者へのメッセージをお願いしたところ、「最近は調べればすぐに情報が入りますが、実際の現場を見て欲しいので、当社では現場見学会を実施しています。労働環境も昔と比べると変わってきているので、ぜひ、自分の目で確かめて欲しいです」とのこと。若い人の活力とベテランの経験を融合させ、魅力ある現場を作る、それが建設業の明日へと繋がっていくと締めくくった。

登録基幹技能者	熟達した作業能力と豊富な知識と経験を有し効率的に作業を進めるマネジメント能力を備えた技能者です。現場では上級職長などとして活躍しています。